

体験活動推進プロジェクト 防災キャンプ推進事業

防災キャンプ推進事業

滋賀県

【事業のポイント】

- 地域の消防団・自主防災組織・地域住民ボランティアの全面協力による研修プログラムの実施。
- 子どもの体験活動を支える地域の大人同士のつながりを強め、地域の教育力・防災力を高める取組を支援。
- 「防災キャンプフォーラム」を開催し、滋賀県で実施した防災キャンプの事例発表や講演をとおして子どもの体験活動の推進や充実を図る。



地域の消防団の協力による消火訓練

1. 企画

(1) 事業実施の背景

滋賀県は、琵琶湖西岸断層帯、鈴鹿西縁断層帯をはじめとしていくつもの断層帯が存在し、うち何箇所かは今後30年以内に地震が発生する可能性が高いと言われている。また、昨年度はとりわけ大きな自然災害が多く、台風18号において国内で初めての特別警報が適用されたことは県民の記憶にも新しい。その中で、日頃から防災に関する住民自らの意識の向上と有事の際の冷静かつ集団的な取組は重要となると考えている。

近年、子どもの社会性や人間性の育成を図る上で重要な身近な地域における体験活動等の機会が減少していると言われており、家庭や地域などに向けて子どもの体験活動の意義や実施促進について理解を求め、普及啓発に取り組むとともに、防災教育の観点に立った子どもの体験活動として、「防災キャンプ」を推進することとした。

(2) ねらい

「防災キャンプ推進事業」では、各地域において想定される災害や被災時の対応等の理解、学校や地域の公民館等を避難所と想定した生活体験等の防災教育プログラムを実践することとし、地域住民をはじめ地域の関係団体・学校・行政が一体となって実行委員会を組織し参画することで、子どもや保護者、地域住民に対して被災時の「自助・共助」について実践的な防災学習の機会を提供する。併せて、子どもの体験活動を支える地域の大人同士のつながりを強め、地域の教育力・防災力を高める効果も期待している。

2. 事業概要

(1) 運営体制

◎愛荘町に再委託し、防災キャンプを実施する。

滋賀県教育委員会事務局生涯学習課の役割

- ・国との連絡調整
- ・事業に関する事務
- ・再委託先への指導助言
- ・企画運営委員会への参画
- ・防災キャンプ運営支援
- ・滋賀県防災キャンプフォーラムの開催
- ・県内自治体への啓発

愛荘町教育委員会事務局生涯学習課の役割

- ・県との連絡調整
- ・事業に関する事務
- ・企画運営委員会の開催
- ・関係団体との連絡調整、協議
- ・防災キャンプの実施
- ・滋賀県防災キャンプフォーラムでの事例発表

【愛荘町防災キャンプ関係機関団体】

愛荘町総務課、町社会福祉協議会、町教育委員会、愛知川公民館、町消防団、東近江消防本部愛知消防署、愛知郡広域行政組合、町内自治会防災支援隊、老人会、町民ボランティア、町PTA連絡協議会、地域教育協議会、滋賀県教育委員会生涯学習課

(2)開催実績	
月 日	内 容
5月下旬	事業日程の調整および運営体制の検討
6月20日(金)	愛荘町防災キャンプ第1回企画運営委員会
7月24日(木)	愛荘町防災キャンプ第2回企画運営委員会
8月20日(水)～ 8月21日(木)	愛荘町防災キャンプ(1泊2日)
9月19日(金)	愛荘町防災キャンプ第3回企画運営委員会
11月28日(金)	滋賀県防災キャンプフォーラムにて事例発表

3. 防災キャンプ実施概要

(1日目)		
9:00	役員集合 活動についてスタッフ打合せ	
9:30	開講式 開講挨拶 (愛荘町教育委員会教育長、県担当者) 班編成、自己紹介、1日目の活動の説明 安全に関する諸注意	
10:00	起震車体験 消防署員2名の指導により、起震車体験をとおした 防災キャンプの動機づけを行う。 (阪神・淡路大震災時の震度7を体験)	
	防災講座① テーマ「災害時の心構え」 元消防署長の講話を聞き、避難所での生活、 各自ができることは何か、弱い立場の方への 配慮など、講師の災害派遣の経験から学んだ。	
12:00	炊き出し体験 避難所での活動でまず必要となる「炊き出し」体験として、 塩おにぎりを作り、昼食の準備をした。	
12:45	昼食・休憩 炊き出しの試食。食事が十分に行き渡らない場合を考え ながら試食し、感想を話し合った。	
14:00	防災講座② テーマ「避難所での居場所づくり」 講師の指導により、ダンボールを利用した生活スペース 作りをグループごとに実施。(避難所設営キットを使用。) ※会場の武道館内が高温のため、急遽冷房の効く研修 室へ移動。参加者に熱中症予防飲料を配布。	
15:30	応急対応訓練 消防団副団長の指導により、応急担架の作成を学び、 実際に搬送できることを体験した。他、担架が無い場合、 楽に背負って搬送する方法等を学んだ。	
16:00	援助物資の受領訓練 援助物資が届いたとの想定で、車から避難所内への 物資搬入、避難者への配布を体験した。	
16:30	就寝準備 夜の活動の前に、布団・シーツの準備を行った。 頭を使うワークショップ (レクリエーション)	

18:00	夕食・休憩 非常食による夕食 湯をかけて作るフリーズドライの炊き込みご飯を試食	
19:00	防災講座③ 「防災・減災ゲーム」 社会福祉協議会講師の指導により、「防災クロスロード」ゲームをとおして、災害時の行動や避難所での生活について考えを出し、話し合った。	
20:00	防災講座④ 「町防災センターの見学・体験」 ・消防車、特殊工作車、救急車の見学 ・防災センター、消防署の施設見学 ・水消火器による模擬消火訓練 ・防災備品備蓄庫の見学 ・消防団ポンプ操法の見学 ・消防団副団長による講話 「消防団の仕事、任務について」	
21:00	洗髪・シャワー 天日の下に置いたペットボトル2本分のぬるい水（4ℓ）を使って、洗髪と体を洗う体験をした。（希望者のみ）	
22:00	就寝 寝るときに騒がない等の避難所での夜間の心構えを守りながら就寝した。	
【2日目】		
6:00	起床、身辺整理 洗面、寝具の片づけ	
7:00	朝食 非常食による朝食 長期保存が可能な、「パンの缶詰」について学んだ。	
8:00	フィールドワーク 中山道沿いのフィールドワークを行い、防災マップ作成の資料を集めた。グループごとに地域の危険調査を行い、ノートに記録した。 （安全確保のため、ボランティアの大人が複数人同行した。）	
9:30	防災マップづくり フィールドワークの結果を地図にまとめる作業を行った。昨年度に作成したマップとの比較を行った。	
11:00	災害時の調理体験 ボランティアの協力により、火おこし体験を行った。	

12:00	昼食・休憩 防災用レトルト食品による昼食	
13:00	活動の振り返り 2日間の活動のまとめを「防災キャンプのまとめ」に記録。感想文を書いてまとめた。	
13:45	閉会式 ・防災キャンプのまとめ 子どもたちのがんばりや思いやり、キャンプをとおして学んだことについては館長が講評した。 ・「いいこと見つけ」カード紹介 ・修了証交付 ・記念撮影	  
14:00	解散 保護者の送迎により帰宅。	

4. 普及啓発の実施概要

1. 滋賀県防災キャンプフォーラム

趣 旨:地域で防災教育の体験活動に関わる機関・団体・指導者・ボランティア等が一堂に会し、県内で実施された防災キャンプの事例発表と講演を通して、各機関・団体の学びの機会とし、連携を深め、今後の防災キャンプ事業の普及と啓発を行うこととして実施する。

実施期日:平成26年11月28日(金) 13:20~16:30

実施場所:滋賀県庁東館7階 大会議室

参加人数:37名 (申込者43名 当日欠席者6名)

参加対象:各市町職員、生涯学習主管課課員、公民館・コミュニティセンター等職員、社会福祉協議会職員、教員(学校防災教育コーディネーター)、子どもの体験活動に関わるNPO団体ほか、ボランティア、大学生

(1) 事例発表

①「愛荘町防災キャンプ」の取組 発表者 愛知川公民館 館長 佐伯 健次 氏

② 菩提寺北小学校において開催された「楽しくて役に立つ防災キャンプ」の取組
発表者 あすなろ応援団キャンプ実行委員会 事務局 笹谷 康之 氏

(2) 講演 演題:地域の教育力を高める「防災・減災」
～大規模自然災害がもたらす被災地域の実践知から学ぶ～
講師:日本福祉大学 福祉経営学部 准教授 山本 克彦 氏



2. WEBや広報誌等を活用した普及啓発:

- ・滋賀県学習情報提供システム「におねっと」で情報発信
- ・地震防災対策等、安全・安心な暮らしのための情報番組「くらしSafety」の放送
(提供:滋賀県、制作:びわ湖放送 20:55~21:00放送)
- ・滋賀県教育委員会教育広報誌「教育しが」に掲載
(発行部数:20万部、対象:県内の幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の児童生徒の保護者全員、全教職員、市町教育委員会、教育機関)

5. 成果と課題

(1) 事業成果

・再委託先が実施した防災キャンプ参加者からは、「災害は身近に起こりうることが自覚できた。」「地域において『自助・共助』が大変重要であることをこのキャンプで話し合えた。」「このキャンプに取り組むことで地域のつながりが深まり、今後の地域防災活動にきっと役立つと思う。」等の感想が寄せられ、地域の各団体が一体となって取り組む防災教育プログラムを推進するつながりづくりを支援することができた。

・防災キャンプフォーラムを開催することにより、市町教育委員会、公民館、コミュニティセンター、学校、子どもの体験活動に取り組む機関・団体、社会福祉協議会等、子どもの体験活動に関わる機関や団体間で、防災教育の観点に立った子どもの体験活動の成果を共有し、活動の啓発・推進を図ることができた。

・このことにより県内では、被災時に避難所として使用される学校や公民館・コミュニティセンター等を会場とした「避難体験合宿」や、宿泊を伴う「防災避難訓練」を行う市町・団体の取組が広がっている。

・防災キャンプフォーラムにおいて事例紹介した防災キャンプの取組は、県内各地域の防災モデルとして県民全体の防災意識の高揚を図る事例として活用されている。

・県内各地において、地域の大人と子どもの間で「顔と名前が一致する関係」を築き、これをきっかけとして地域の教育力・防災力の向上への一助となった。

(2) 事業運営上の課題・留意点

・平成26年度「防災キャンプ推進事業」により、防災キャンプを実施したのは1町にとどまったことから、市町に対して本事業の趣旨をきめ細かく説明し、防災教育の観点に立った子どもの体験活動が推進されるよう、今後更に普及啓発を図っていく必要がある。

・防災キャンプを支援する地域の大人のつながりが、まちづくりの視点からも大変重要であることから、事業企画段階から地域住民や各団体の参画を促すとともに、保護者と一緒に親子で取り組むプログラムについても研究し、提案していく必要がある。

・防災キャンプフォーラムの開催時期については、関係機関の事業やイベントと重ならないよう調整するとともに、より広く県内に事業の趣旨が周知されるよう工夫したい。

(3) その他

・平成25年度、事業再委託を受け「防災キャンプ」を実施した湖南市は、平成26年度においては市で予算化を図り、地域住民の参画により事業を実施している。さらに、平成25・26年度に再委託を受け「防災キャンプ」を実施した愛荘町は、平成27年度は公民館事業として実施を検討している。これらのように当該委託事業の実施をきっかけとして、新たな取組も動き出していることから、今後、持続可能な仕組みづくりの検討を行うとともに、市町に向けて事業実施を働きかけていく必要がある。

6. 団体プロフィール

滋賀県教育委員会事務局生涯学習課
〒520-8577
滋賀県大津市京町四丁目1番1号
電話077-528-4654